

先天性有窓膈横中隔 (Septum vaginae transversum) ノ 1 例

金澤醫科大學産科婦人科學教室(主任笠森教授)

助手 望月貞次郎

Teijiro Mochizuki

(昭和17年10月1日受附)

内 容 抄 録

4歳ニシテ軽度ノ麻疹ヲ経過セル以外、猩紅熱、「ヂフテリー」等ノ小兒疾患ニ罹レルコトナク、淋菌性膈炎、熱性病等ノ膈壁癒着ノ原因トナル疾患ノ既往症

ナクシテ、5箇ノ窓孔アル膈横中隔ヲ膈腔ノ略々中央部ニ有スル成熟婦人ニ遭遇シ、茲ニ之ヲ報告ス。

目 次

緒 言
 實驗例
 總括並ニ考案

附圖並ニ附圖説明
 文 獻

緒 言

膈ノ畸形中縦中隔ハ發生學上合理的ニシテ比較的多く存スル所ナルモ、横中隔ハ甚ダ稀ナリ。而シテ横中隔ハ先天性ノモノニ比シテ後天性ノモノ多キガ如シ。

之ヲ外國文獻ニ索ムルニ此等ハ多く妊娠時又ハ分娩時障礙ニヨリ發見サル、モノ多く、Eberlin⁽¹⁾、Nieberding⁽²⁾ハ切開又ハ切除ニヨリテ分娩ヲ遂ゲタル例ヲ報告シ、Jaklin⁽³⁾ハ膈壁ヲ切

開シ、鉗子ニヨリ分娩ヲ了セル例ヲ報告セリ。本邦ニ於テモ川口⁽⁴⁾、篠田⁽⁵⁾、井上⁽⁶⁾等ノ少數ノ報告ヲ見ルノミ。余ハ最近4歳ニシテ軽度ノ麻疹ヲ経過セル以外、猩紅熱「ヂフテリー」等ノ小兒疾患ニ罹レルコトナク、淋菌性膈炎等ノ膈壁癒着ノ原因トナル既往症ナクシテ膈横中隔ヲ有シ、組織學的ニモ先天性ナルコトヲ證明シ得タル婦人ニ遭遇セシニヨリ、茲ニ之ヲ報告ス。

實 驗 例

患者。藤○廣○。(20年9ヶ月)
 家族歴。兩親健在。同胞5人畸形ナク、血族中ニ特記スベキ遺傳性疾患ナシ。

既往症。生來健康。4歳ニ軽度ノ麻疹罹患、15年9ヶ月初經、爾來周期稍々不順ナレドモ持續日數7日間、經血中等量、月經時軽度ノ頭痛ヲ訴フルノミ。20

年4ヶ月健康夫と結婚。

主訴。昭和17年5月25日ヨリ5日間ヲ最終月經トシ爾後無月經。他醫ニヨリ腔中隔ノ存在ヲ認メラレ昭和17年8月12日來院。

現症。食慾稍々不振、便通1日1回、排尿正常、睡眠良好、身長148cm、胸圍75cm、體重48kg、體格榮養共ニ中等度、第1～3腰椎ニ後彎症存スレドモ「レ」線學的ニ著變ナシ。

外診所見

外陰發育正常、發毛中等度、處女膜裂痕ハ腔前庭ノ下部ノミ癢痕狀ニ肥厚殘留ス。

内診所見。腔入口ヨリ3cm内方ニ有窓腔橫中隔ヲ認ム。中隔窓ヲ通シテ内診指ヲ挿入セバ正常大ナル1箇ノ子宮腔部ヲ觸診ス。子宮ハ前傾前屈稍々肥大スレドモ硬度尋常、可動性、左側附屬器ニ稍々壓痛アリ。妊娠徵候ヲ明ニ認メ難シ。

診斷。有窓橫中隔症。

手術所見。腔橫中隔ヲ精檢スルニ第1圖ノ如ク5箇ノ窓ヲ有シ、中隔左右徑6cm、最大前後徑1.5cm、中隔ノ前腔壁基底ハ外尿道口ヨリ3cm内方、前腔穹

窿ノ子宮腔部移行部ヨリ2cm外方ニ存シ、中隔ノ後腔壁基底ハ處女膜緣ヨリ3cm内方ニ位スルヲ證セリ。

昭和18年8月18日腰髓麻醉ニヨリ教授執刀ノモトニ手術ス。即チ先ヅ前腔壁ニ於ケル中隔基底ヨリ切斷ト縫合トヲ開始シ、順次ニ左右側方ニ及ビ、最後ニ後腔壁ニ於ケル中隔基底ヲ切斷縫合シテ之ヲ完全剔除セリ(第2圖)。子宮腔部ハ第3圖ノ示ス如ク1箇ニシテ、大サ正常、爾後ノ月經經過ヲ觀察スルコト、シテ内膜搔爬ヲ行ハズ、「ヨードフォルムガーゼ」ヲ挿入シテ手術ヲ終レリ。

手術經過。術野ハ腔腔ノ略中央ニ位スルガ故ニ膀胱留置「カテーテル」ヲ挿入セズシテ自然排尿ヲ行ハシメ、排尿毎ニ腔入口ノ制腐法ヲ行ハシム。術後第8日半抜糸、第9日全抜糸、術後第17日ニ於ケル内診所見ニ據レバ、中隔基底層ハ第一次癒合ヲ營ミ浸潤ヲ缺キ、子宮ハ前傾前屈シテ大サ鷲卵大稍々右方ニ肥大シ、硬度軟、子宮出血ヲ認メズ。更ニ「フリードマン」氏反應ヲ檢スルニ陽性ヲ示セリ。依テ妊娠第3月上旬ト診定ス。斯テ順調ナル經過ノモトニ18日ニシテ退院セシメ得タリ。

總括並ニ考按

腔中隔ノ原因トシテハ先天性原因タル發育障礙乃至胎生時ノ癒着ト後天性癒着トガ考ヘラル。先天性腔縱中隔ハ發生學上合理的ニシテミユルレル管ノ胎生時ニ於ケル癒合障礙ニ因ルモノニシテ比較的多く存在スルモノナルモ、本例ノ如キ橫中隔ノ發生原因ハミユルレル管ノ發育異常ニ因ルモノナラムモ、其ノ發生機轉ニ至リテハ未ダ明カナラズ。

余ノ實驗例ニ於テハ4歳ニシテ輕度ノ麻疹ニ罹患セル以外淋疾、「ヂフテリー」熱性疾患等腔壁癒着ヲ招致スベキ疾病ナク、本人ハ意識シテ以來性器疾患ヲ知ラズ。外陰部腔腔ニ癢痕ナ

ク、血清梅毒反應陰性ニシテ、殊ニ第2圖實線矢印部ノ組織ヲ檢鏡スルニ、粘膜組織ニ炎症性病變ヲ認メザル點ニ徵セバ先天性腔橫中隔症ト思考スベキ症例ナリ。

而シテ本例ハ妊娠中ナルニヨリ、放置スレバ分娩障礙ヲ來スヤ明カナリ。手術ニ際シ單ニ切開ニ止メズ橫中隔ヲ其ノ基底ヨリ完全ニ剔除セシニヨリ、分娩時ノ障礙ヲ遺サザルハ容易ニ推測シ得ル所ナリ。

稿ヲ終ルニ臨ミ、御指導ト御校閲ヲ賜リタル恩師笠森教授ニ對シ、衷心ヨリ深謝ス。

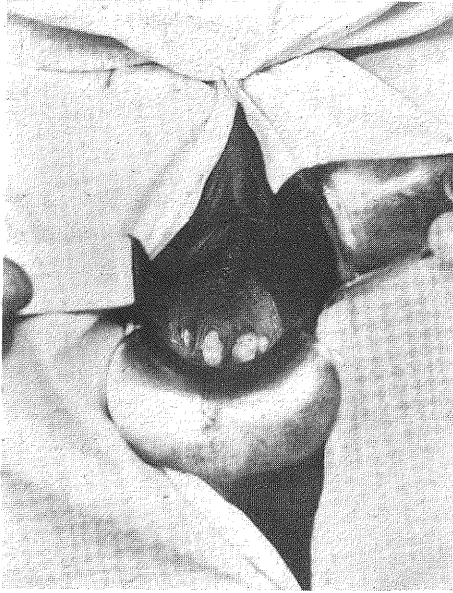
文 獻

1) Eberlin, Über zwei Geburten bei Atresie bei Scheide. Zeit. f. Geb. u. Gyn. 1899. 2) Nieberding, Über eine seltene Anomalie der

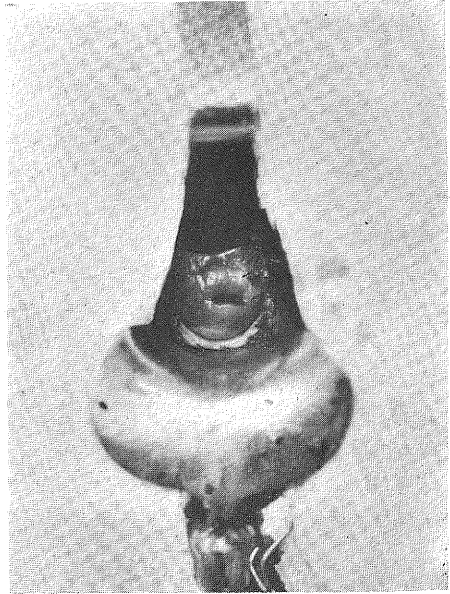
Vagina. Jahresberichte. 5. 3) Jaklin, Striktura vaginae als absolutes Geburthinderniss. Wien med Woch. 1902. 4) 川口, 日本婦人

望月論文附圖

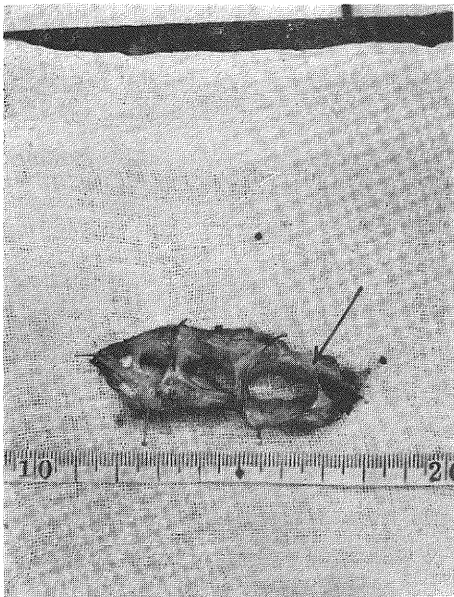
(1)



(3)



(2)



(4)



科學會雜誌, 第21卷. 5) 篠田, 日本婦人科學
會雜誌, 第24卷. 6) 井上, 産科ト婦人科, 第

2卷. 7) 柳, 臨床産科婦人科, 第3卷.

附 圖 說 明

(1) 手術前ノ腔横中隔所見. 中隔窓ニ綿 (白
色部) ヲ挿入シテ之ヲ明示セリ.

(2) 基底ヨリ完全剔除セル腔横中隔 (矢標ハ
組織検査部ヲ切除セル部分ヲ示ス).

(3) 中隔剔除直後ノ子宮腔部.

(4) 第2圖矢印部ニ於ケル中隔組織檢鏡所見.

(×70) 粘膜組織ニ炎症性病變ヲ認メズ.
